



◆生育状況について

他の果樹の生育は昨年並みとなっている。今後は、気温が高い事が予想されているため、管理作業等遅れないようにする。

1. JA管内 ナガノパープル生育

	発芽	開花	満開
平年	4 / 24	6 / 1	6 / 8
令和7年			
令和6年	4 / 17	5 / 25	6 / 2
令和5年	4 / 11	5 / 31	6 / 9

2. JA管内 シャインマスカット生育

	発芽	開花	満開
平年	4 / 26	6 / 7	6 / 11
令和7年			
令和6年	4 / 20	6 / 1	6 / 5
令和5年	4 / 16	6 / 6	6 / 12

◆当面する重点作業・技術

- 春の強風等で枝が反転した園地は、早急に誘引配枝のやり直しを行う。
- 気象情報に注意を払い、凍霜害対策に万全を期する。防霜ファンの電源を確認する。
- 凍害及びクラウンゴールの被害を受けている可能性があるため、粗皮はぎ時に主幹に裂傷などが無いかなを確認する。また発芽以降自園の状況をよく観察し、発芽がしない・遅れている場合はかん水を行う。
- 芽欠き作業を行い、新梢の勢力伸長を揃える。
- カスミカメムシはヨモギで増えるので、毎年被害の多い園では草刈を行う。
また、近隣の耕作放棄地でも発生するため、地域ぐるみでの対策を行う。

◆第3回薬剤散布について

- 散布時期：展葉数で2～3枚目が10円玉の大きさになった頃 散布日 月 日
生育の状況を観察し適期に散布する。（自根樹は生育が早いため、散布時期に注意する。）

- 調 合 量：水1000ℓ当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
展 着 剤	10mℓ	—	—
キノンドー顆粒水和剤	100g	黒とう病	45日
(㊟ダイアジノン水和剤34)	100g	カイガラムシ類・カメムシ類	30日

- 散 布 量：10a当り＝2500ℓ以上

- 留意事項

- ①シャインマスカットやクイーンルージュ®・欧州系など黒とう病に弱い品種は重要な防除となるため、タイミングを合わせて必ず散布を行う。
なお、苗木であっても主幹・主枝に被害が出ないように散布を行う。
- ②カイガラムシ類・カメムシ類の発生が心配される場合は、㊟ダイアジノン水和剤34を加用散布する。
カイガラムシ類対策として、散布の際は、主幹・主枝、特に芽座にしっかりと散布する。
- ③キノンドー顆粒水和剤に代えてICボルドー66Dの50倍（水1000ℓ当り2kg）を使用してもよい。

◆カイガラムシ対策の薬剤防除について

1. 塗布時期：4月末頃～5月初旬 塗布日 月 日
 2. 調 合 量：1樹当たり水40ml 当り

農薬名	使用量	対象病虫害	収穫前
アルバリン顆粒水溶剤	40g	カイガラムシ類	幼果期・30日

3. 使用上の留意事項

- ①降雨により、薬剤が流れ落ちてしまうため、塗布してから2日位は天気の良い時に実施する。
- ②1樹当たり水40mlに薬剤40gをよく溶かし主幹部を縦50cm以上、環状に粗皮削りし、当日～翌日にハケで塗布する。
- ③塗布後48時間は降雨にあわないよう配慮する。
- ④使用回数が年1回となっているので、クビアカスカシバの防除（6月上旬に樹幹塗布）とどちらかでの使用となる。



4. 実施方法

- ①当日または前日に粗皮を取り除く。（時間が経つと浸透しにくい）
粗皮は出来るだけ取り除いた方が薬液が浸透する。
ただし、削りすぎて樹液が出てくると薬液が落ちてしまうので注意。
- ②ハケを使用して、溶かした薬液を押しつけるように、1樹当りの薬剤をしっかりと塗る。
- ③使用回数は年1回の為、塗り直しは出来ない。乾いてから塗りなおしても効果は少ない。

◆管理講習会（種なし品種の芽かき作業・カイガラムシ防除等）開催について

下記日程により、講習会（種なし品種の芽かき作業・カイガラムシ防除等）を実施致しますので、ご都合のよい会場にご参加下さい。

※発生増加し果房被害が増大している、カイガラムシ対策の薬剤防除の実演を★印会場で実施致します。

開催日	曜	集合時間	開催場所	担当
5月1日	木	午前 9:00	松代 萩原久光様園（昨年と同じ会場）	伊藤
		午前 9:30	綿内 安藤周三様園	寺澤
		午前10:00	東部流通センター（現地へ移動して開催します）★ また、駐車はセンターの南側に整然とお願いします。	外谷
			今井 千野しげ子様園	松橋
			真島 小林芳春様園	根津
		午前10:30	東条 中村忠勝様園	伊藤
		午前11:00	綿内 昨年と同じ会場 宮沢様園	寺澤
		午後 1:30	石川 南澤ひろ江様園	徳武・外谷
			保科 伊藤哲也様園 保科薬調上 ★	寺澤
		午後 3:00	塩崎 宮寄正一様園	徳武・外谷

◆種枝の誘引・園内の清掃について

長・中梢仕立てでは芽が膨らんでから誘引を行うと芽が欠けやすい。終了していない園では、早急に仕上げておく。もう一度園内を見回り点検を行う。

◆芽かき作業 <<発芽や樹勢に応じて行い、新梢の勢力伸長を揃える

〔種あり巨峰〕

第1回目

1. 展葉初期に不定芽と種枝基部の2芽をかき取る。
2. 樹勢の弱い樹は早目から行う。

第2回目

1. 副芽や極端に強い新梢をかき取り、棚の明るさとバランスを保持する。
2. 負け枝を作りやすい部位（主枝分岐部・側枝種枝の基部）は早めに処理する。
3. 5～6枚期以前に強い新梢を除去することにより、基部に近いところまで新梢を揃えることができる。
4. 花振り回避のため、開花前の芽かきは極力弱めとする。（強樹勢）
⇒但し、開花中に棚が暗くなっても困る。
5. 樹勢が強く芽数が多く残っている場合、不要な結果母枝を棚下へ下げて棚の明るさを確保する。

〔種なしぶどう〕（短梢剪定）

短梢部分と長梢部分（主枝延長枝）は、芽かきの方針が異なるので注意

1. 主枝延長枝の芽かき

- ①副芽は早めにかき取る（短梢部分も）
- ②長梢部分から発生した副芽は新梢誘引時にハサミで切る。※手で欠き取らないように！



副芽が大きく伸長している場合は、基部をハサミで切る。
手で欠き取ると、残った本芽にまで傷が及び、誘引時に折れやすくなる。

2. 短梢部分の誘引と芽かき（芽かきは誘引後に行っても良い）

- ①2芽剪定をした人は展葉2枚までに先端側の芽をかく。
- ②30cm程伸び（展葉4～5枚頃）、花穂の素質がわかり次第、必要に応じて芽かきをする。

短梢部分は新梢が伸びやすいので、あせって芽かきをしなくても良い。

- ③原則として、芽座の基部側の新梢を残し、1芽座に1新梢とする。

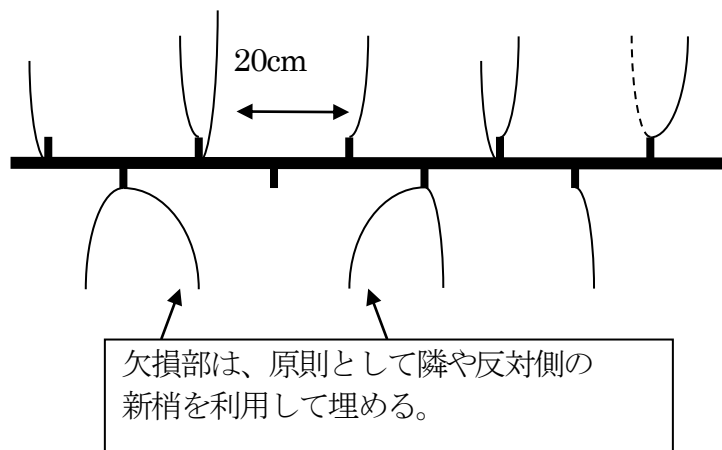


図2 欠損部の補充方法

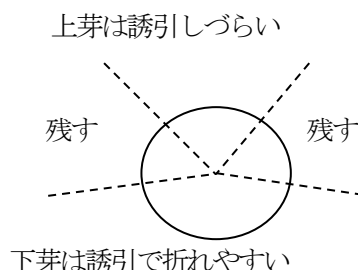


図1 残す芽の位置

最終的に片側20cmに1本程度新梢が欲しい。
特にナガノパープルは誘引時に折れやすいので、芽かき時に目標本数より多く残しておく。

- ④基部側の新梢の伸びが悪い時や、判断時期が遅れた時は、やむを得ないので先端側の強い新梢を残す（短梢せん定の維持が困難になりやすいが、生産量を優先させる）。
- ⑤新梢は、目標本数の2割多く残す。（最終目標本数：片側20cmに1本）
特に、誘引時に折れそうな位置にある新梢の付近には多めに残す。
- ⑥欠損部がある場合は、2芽残す。反対側の新梢の状況も確認しながら誘引準備を行う。